

人生ハンド仏句

ミニ説法

住職 谷川 寛俊

人間はこの世を楽しく生きることを考えなければ損である。そう言う誰でもお金さえあればと考えたがるが、無論お金は是非必要である。だが日本銀行発行の紙幣には限りがあり、人間の欲には限りがないから、誰でも思うようにお金を手に入れることは出来ないのである。

だから今持っているお金で暮らす

ことを考えなければ、お金持ちになってから楽しもうと思っ
ていると、大部分の人は当てが外れるであろう。お金の使い方は身分相応ということを知っていれば、決してやりそこなうことはない。問題は楽しみの狙いと受け取り方にある。これもそんなに難しいことではない。頭の働かし方にある。ふだん時間勤めをしている人は、日曜祭日の休暇には是が非でも行楽

か、娯楽に時間をつぶさなければ、この世に楽しみがないように思っている。そうして一度に繰り出すから、どこもかしこも満員すし詰めで楽しみよりも苦しみが多くなる。子供の時は珍しい物を見たり食べたりするのが楽しい。だが大人は考えるべきだ。真の人生は昨日でもなく明日でもない。今日只今の時間だけ確かに自分のものである。その今日を楽しまないで一体いつ楽しめるであろうか。ということを考えるのである。

日々これ好日という言葉が

ある。毎日を楽しむには愛情をもつて人に接するに限る。親切と謙譲が自然にやれるようになれば、申し分なく楽しめる。人の自慢を嫌がらないで聞ける人になれば楽しめる。人の過去を許せる人になれば楽しめる。自分の仕事に魂を打ち込める人になれば楽しめる。泣き言を言わない人になれば楽しめる。真実を貴び清潔を好む人になれば楽しめる。要するに楽しみはこの世に山ほどある。それを楽しめるのがお題目の功德である。

【聖徒タイムス(霊断師会発行)参照】